

# 世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2011.1.15/1.25 No. 95 連絡先 FAX 042-555-1911



## イラクやアフガニスタンの戦場に直結する米軍横田基地



アフガニスタン戦争 … 2001年から現在までの戦争で、武装勢力と外国軍の作戦によって何千人もの市民が殺され、戦争による避難、飢餓、疾病、汚染、医療の不足、犯罪や不法行為によってさらに何万人もの市民が命を落としています。



先月、佐世保で行われた日本平和大会にはアフガニスタンのジャーナリスト、アルコザイ氏がゲストとして招かれました。

彼は、アフガニスタンの状況を写真を使用して説明し、参加者に「戦争 NO！」と訴えました。左の写真2枚は、殺されていく子どもたちの姿です（了解を得て掲載）。

いま日本では政府もマスコミも、北朝鮮や中国を脅威とあおり、米軍や自衛隊が国民を守ると宣伝しています。しかし人殺しの軍隊は、人の命を守りません。核も基地もなくして、戦争のない平和な世界をつくりましょう。

## 自衛隊「横田基地新設」に 福生市長も市議会も抗議・申し入れ書

昨年12月17日に政府が閣議決定した中期防衛力整備計画（2011～2015年度）に、「米軍とのインターオペラビリティを向上するため、横田基地を新設し、航空総隊司令部等に移転する」と明記されたことについて、加藤福生市長は「事前説明もない。基地新設は基地強化につながりかねない。」と1月7日、防衛省を訪れ抗議・申し入れをし、市議会も1月13日、正副議長で関東防衛局に行き、議会総意の抗議・申し入れ書を提出しました。

「横田基地の撤去を求める西多摩の会」の世話人7人は、1月21日、福生市を訪れ加藤市長と懇談しました（右の写真）。市長は「市民の安全が大事と言う立場で国にも対処する。」と語りました。



## 「弾道ミサイル防衛 態勢強化へ」とNHKが報道（1月6日）

「防衛省・自衛隊は、弾道ミサイル防衛の態勢を強化するため、ことしミサイル防衛の司令部をアメリカ軍の横田基地に移転させるとともに、地上配備型の迎撃ミサイルを初めて沖縄に配備することになっています。（下線は編集者）」

日本のミサイル防衛システムは、日本に向けて飛来してくる弾道ミサイルを海上のイージス艦と地上から発射する迎撃ミサイルの2段構えで撃ち落とす仕組みで、新しい防衛大綱で態勢が強化されることになりました。この一環として、ミサイル防衛の司令部が置かれている東京・府中の航空自衛隊・航空総隊司令部は、ことし3月から1年をかけてアメリカ軍横田基地の中に移転します。この移転によってアメリカの早期警戒衛星が探知したミサイルの発射情報をいち早く入手する態勢を整え、不測の事態に迅速に対処するのがねらいです。」（以下略）

## 日本を「戦争する国」にする 新防衛大綱に反対！

(No. 95 の裏面)

2010年12月17日、防衛計画大綱（「平成23年度以降に係る防衛計画の大綱について」）が閣議決定されました。その末尾の「留意事項」には「この大綱に定める防衛力の在り方は、おおむね10年後までを念頭に置き、**防衛力の変革**を図るものである」「計画的な移行管理をおこなうとともに、事後検証を行う。また、**あるべき防衛力の姿**について不断の検討を行う」と書かれており、アメリカが求める日本の防衛力に「変革」「移行」しようとするものです。

アジア太平洋の情勢については、「中国・インド・ロシア等の国力の増大」「米国の影響力が相対的に変化」しつつある。「中国は、軍事力の広範かつ急速な近代化を進め」「周辺海域において活動を拡大・活発化させており、このような動向は地域国際社会の懸念事項となっている」と、中国の台頭、米軍の衰退を懸念。中国を敵視し自衛隊の出番を強調するのです。

**在日米軍**については、「地域における不測事態に対する**抑止及び対処力として機能**しており」と書いています。「抑止力」とどまらず「対処力」とは、武力行使もするということです。

そして、**日米同盟の深化・発展**のための重点課題として、周辺海空域の安全確保、島しょ部に対する攻撃への対応、弾道ミサイル攻撃への対応などを列記しています。

**防衛力（自衛隊）の在り方と役割**では、「共通の戦略目標及び役割・任務・能力の検討。情報協力、計画検討作業の深化。周辺事態や各種事態における運用協力。弾道ミサイル防衛における協力。装備・技術協力。拡大抑止の信頼性の向上、情報保全のための協議。米軍の抑止及び対処力の強化。共同訓練、移設の共同使用」が書かれており、まさに日米軍事一体化です。

民主党政権は、最前線で米軍事戦略の一環を担わされる「防衛計画大綱」を、もっぱら日本の安全のため、と国民に思いこませようとしています。しかしこの大綱は、日本国憲法を無視する危険な道です。国民的な運動で阻止していくことが求められています。（太字は編集者）

### 「横田基地 土中に大量の銃弾 米軍、防衛局は調査せず」北海道新聞1月5日付

「在日米空軍横田基地（東京）の排水工事で2006年、土中から大量の銃弾や廃棄物が見つかったのに、工事中断を恐れた請負業者がそのまま埋め戻していたことが分かった。複数の関係者は「銃弾50～数百発が今も埋まったまま」と話すが、発注元の防衛省北関東防衛局も米軍も調査、発掘をしない方針だ。

銃弾などが見つかったのは滑走路近くの射撃場周辺。金網を挟んで工場や畑に隣接する。工事は、同局が9900万円で東京の業者に発注した。関係者によると、機械で地下2メートルを掘削中、長さ約15センチ、直径約2センチの銃弾が大量に出てきた。しかし「防衛局や米軍に報告すると調査で工事が中断し次の仕事に食い込む」として埋め戻したという。油臭い液体が残るドラム缶2本と金属タンク、地中に延びる直径10センチの古い鉄管2本も見つかった。

日米地位協定は、土地が汚染されたり銃弾など異物が埋まっても米軍に原状回復義務はないと決めている。沖縄では、基地返還後、日本の負担でドラム缶やポリ塩化ビフェニール（PCB）などを除去しており、陸上自衛隊矢臼別演習場など道内で拡大する米軍訓練でも同様の問題が起きる可能性がある。」（北関東防衛局は、銃弾は数発などと言っているそうですが事実は何？）

### 航空自衛隊 空幕長に岩崎空将 総隊司令官に片岡空将 12月24日付

政府は12月21日の閣議で、空幕長に岩崎茂航空総隊司令官、総隊司令官に片岡晴彦教育集団司令官をそれぞれ充てる人事を了承しました。発令はいずれも24日付です。

岩崎 茂（いわさき・しげる）空幕長 昭和50年3月空自入隊。昭和28年2月生まれ、57歳。

片岡晴彦（かたおか・はるひこ）総隊司令官 昭和51年3月空自入隊。昭和27年4月生まれ、58歳。